

2011年度研究「谷中は猫の楽園か——『地域猫』にみる人と猫の幸せ」



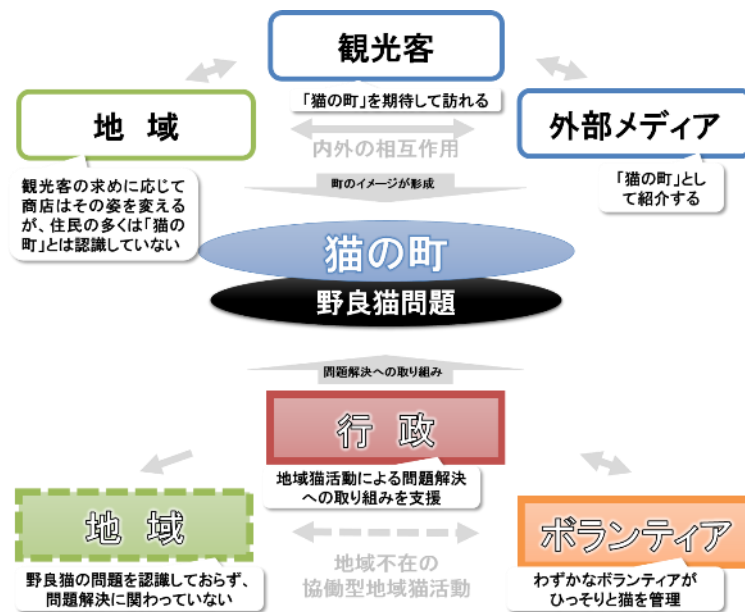
【研究のあらまし】

なぜ谷中は「猫の町」なのか？そこは本当に「猫の楽園」なのか？

これらの疑問を明らかにするため、私たちは谷中と猫に関する研究に取り組みました。12名のゼミ生が、「文化」「コミュニティ」「ボランティア」という3つの社会的視点からそれぞれ谷中と猫の関係を分析しました。

研究の結果、地域の住民の方々の多くは「猫の町」という自覚をもっておらず、「猫の町・谷中」は主に観光客・外部メディアと商店街など地域の相互作用から生まれてきたことがわかりました。また、観光客で賑わう「猫の町」の影の部分としての野良猫問題が発生しており、それに対して行政とわずかなボランティアが問題解決に取り組んでいました。

図1 「猫の町・谷中」の形成と地域猫活動の現状



谷中はたくさんの猫が生息し、猫の文化が薫る「猫の町」ではあるものの、活動に地域の住民がほとんど関わっておらず、人間と猫の共生を目指した取り組みである「地域猫活動」という観点から分析すると、決して「猫の楽園」とは言えないことが明らかになりました。

【報告書ストーリー】

この研究は、最近の雑誌やテレビ、インターネットなどに流布する「猫の町・谷中」にまつわる、「町ぐるみで猫を大事にしている」「人と猫が幸せに暮らしている」などの通説への疑問から始まりました。

なぜ谷中は「猫の町」なのか？そこは本当に「猫の楽園」なのか？この研究では12名の学生が文献や新聞・雑誌記事の分析に加え、何度も谷中に足を運び、商店街、住民、ボランティア、行政の各関係者へのインタビューを行うことで、谷中における人と猫の関係を研究しました。

「猫の町・谷中」の誕生——なぜ谷中は「猫の町」なのか？

① 谷中の町と猫の関係

最初に注目したのは、谷中という町の特徴です。谷中は古くからの寺町であり、広い霊園や多数の寺社、昔ながらの狭い路地裏やひしめく家屋など、猫にとっては隠れ家や住処に事欠きません。また、活気ある商店街や昔ながらの人とのつながりなど、下町的な情緒や温かみは、野良猫にも優しい土地柄をイメージさせます。

実際、夕方になると「夕やけどだんだん」をはじめとしたいくつかのスポットでは猫たちの姿や猫目当ての観光客の姿を見かけます。一方、町を見渡すと、商店街の軒先には猫をモチーフにした商品や看板が多数並んでいるほか、街中には猫グッズ店や猫カフェが10店舗以上も散らばり、猫を目当てに町を訪れ散策する多数の観光客がいます。

たくさんの猫がいるだけでなく、いわば猫の文化が薫る町であることが、谷中が「猫の町」と呼ばれている理由と考えられます（写真1・2）。

写真1 谷中猫たちの姿



写真2 谷中における猫の文化的表象



②「猫の町」の誕生とその影

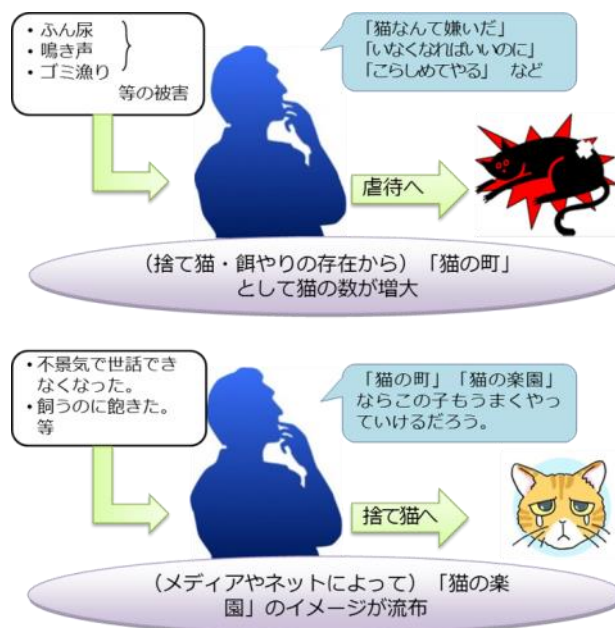
「猫の町・谷中」は誰がどのように作り上げたのか？ 雑誌記事分析や関係者にインタビューを行ったところ、「猫の町」は商店街や行政の戦略ではなく、図2のように、テレビ、雑誌、ブログなどのメディアを介した観光客と主に商店街をはじめとする谷中の町の相互の力によって生まれたことがわかりました。もともと多数の猫が生息した土地でしたが、それを聞きつけて町を訪れた観光客に対応する形で猫をモチーフにした商品や店舗が立ち並び、2000年代後半にはメディアを通じて「猫の町」というイメージが広がりました。

図2 観光地発展における循環



メディアによってあたかも「猫の楽園」と紹介されることで町が賑わう一方、観光客によるエサやりや、「楽園」イメージに由来する他所からの捨て猫、さらには虐待などのトラブルも発生しています。住民が知らないうちに、「猫の町」がきっかけで猫が地域の問題となってしまったのです（図3）。

図3 捨て猫と虐待の構図



③ 谷中のコミュニティと猫との関係

谷中でのインタビューによれば、「猫の町・谷中」と呼ばれることに違和感を覚える住民の方は少なくないようです。では、誰がどのように「猫の町」を支えているのか？ 私たちは商店街をはじめとしたコミュニティと猫の関係を調査しました。その結果、谷中霊園を除いては、地域に広く知られた形での地域猫活動は行われておらず、住民や商店街と猫との直接的な関わりはほとんどありませんでした。

いわば観光資源の一つである猫を地域で管理する仕組みはなく、地域内外から訪れるわずかな数のボランティアの人々が地道にエサやりやトイレ処理、清掃などを行っています（写真 3）。しかしながら、地域の人々にもマスメディアにも、そうした地道な取り組みやその苦勞は伝わっていないのが実情です。

写真 3 周辺に配慮した餌やり活動



④ 谷中における地域猫活動

猫が数多く住む地域では、糞尿や鳴き声、さらには地面にエサをまきちらすエサやりのやり方などが地域のトラブルとなることが多くあります。そこで、問題を未然に防ぐために、ただ適当に猫にエサをやるのではなく、適切なエサやりやトイレの管理に注意を払いながら、猫の繁殖を防ぐための不妊去勢手術などに取り組むことが大切になります。

横浜市磯子区で生まれた「地域猫活動」という取り組みは、ボランティア・行政・地域が協働して野良猫を適正に飼養・管理することで、トラブルと猫の数を減少させていく取り組みです。今では日本全国に広がっており、谷中では谷中霊園で台東保健所および霊園管理所と連携した地域猫ボランティアが地域に配慮した猫の世話と管理を行っています。私たちがフィールドワークやインタビューを重ねた結果、表 1 のような現状が見えてきました。

表1 谷中における地域猫活動の現状

	谷中銀座入口 (夕やけだんだん)	谷中霊園	(その他の地区)
地域	<ul style="list-style-type: none"> ● 谷中銀座商店街では猫をモチーフにしたPRを行っているが、野良猫に対する一定の合意やルールはなく、組織的な飼育管理は行っていない。付近の商店も同様。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域住民、商店街ともに霊園内の地域猫活動の具体的な内容について知っている人はおろか、認知している人すら少なく、積極的に関与する機会もない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 野良猫による被害が町会連合会等で話題となり、区長への要望が出されているが、町会組織としての具体的な取り組みは見受けられない。
ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ● 2009年までは、飲食店主と住民がエサやりを行っていたが、糞尿をめぐって近隣から苦情もあった。 ● 現在、定期的・固定的なボランティアによる餌やり、トイレ設置、TNR等が行われているが、住民にほとんど知られていない。 ● 階段横で通行人や観光客が直接地面に惣菜などを置き、餌として与えている。事後の清掃は一部のボランティアを除き、ほとんどの人は行っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 定期的・固定的なボランティアによる適切な餌やり、トイレ設置、TNR等が行われている。 ● 毎日活動するボランティアのほか、不定期(休日のみなど)に活動するなど多数のパターン。 ● ボランティア同士のネットワークは希薄であり、具体的な情報のやり取りなどは盛んではない。 ● 近隣住民と信頼関係を築き、協力を得ている活動ケースもあるが、ほぼボランティア単独の活動。 ● 特に対外的なPRや広報は行っておらず、防犯とトラブル回避のため、人目を避けて活動することもある。そのため、周辺の認知が低い。 ● 観光客や非登録ボランティアも餌をやるため、一部でルールが不徹底。 ● 近隣住民とのトラブル(苦情など)はあまりないが、まれに餌やりルールの不徹底により、墓所の持ち主から苦情が出ることもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域猫活動そのものやボランティアの活動はあるが、インタビュー調査を実現するには至らず。 <p>※研究上の限界・課題</p>
行政	谷中銀座入口 (夕やけだんだん)	谷中霊園	(その他の地区)
	荒川区	台東区	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域猫活動が制度化されている。不妊去勢手術費用の助成・講習会を行う。 ● 登録ボランティア以外は、餌やりを禁止している。 ● 登録ボランティアによる地域猫活動も行われている模様。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域猫活動が制度化されている。不妊去勢手術費用の助成・講習会を行う。 ● ボランティア講習会を受講したボランティアには手帳と「捨て猫防止パトロール」腕章を配布。 ● ボランティアに餌やり時の捨て猫防止パトロール腕章着装を依頼しているが着装している人は少ない。 ● 捨て猫注意を喚起するポスターを霊園周辺に貼っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 台東区は谷中霊園のみを地域猫活動の対象地としている。 ● 活動の周知は、町会の回覧板で地域猫のチラシを回してもらっているが、活動については十分に知られていない。

⑤谷中は「猫の楽園」か？

谷中には多数の猫が生息し、猫をモチーフにした商品やそれを扱う店舗が集まり、それを目当てに観光客が訪れます。その意味で谷中は確かに「猫の町」といえます。それでは、「猫の町・谷中」は本当にメディアのいうように「猫の楽園」でしょうか？

表2 谷中霊園における地域猫活動の分析(赤字部分)

	公共型地域猫	協働型地域猫	単独型地域猫
活動理念(目的)	● 人間と猫の共生	● 地域の公共的な問題解決	● 動物愛護 ● 生活環境改善
活動内容	TNR、猫の飼育管理、清掃、PR・広報など		
活動体制	三者協働 (行政-ボランティア-地域)	二者協働 (行政-ボランティア /地域-ボランティア/行政-地域)	単独行動 (ボランティア)
社会的機能	● 生活環境問題の改善 ● 問題発見・問題提起	● 野良猫の救済	● 地域のコミュニケーション改善→活性化
活動領域	広域的	限定的	局地的/限定的
継続・安定性	高い	ふつう	低い
特徴	● 町会などを通じて地域を巻き込み、理解を得ることを前提とした活動	● 地域の問題解決に携わるアクター同士の部分的な連携。地域不在の場合は課題が残る	● ボランティアの単独行動のケースが多い。地域に活動が知られにくく、課題が多い

それを検証するために、私たちは人と猫の共生を目指す地域猫活動が地域で適切に行われているかどうか、さまざまなデータを収集しました。その結果、谷中では一部で行政の支援を受けた地域猫活動が行われているものの、その取り組みは地域にほとんど知られて

おらず、また、そもそも猫のトラブルが地域の公共的な問題として共有されていないことがわかりました。これを私たちが作成した地域猫活動のモデルに照らしてみると、表 2 のとおり、谷中の地域猫活動は人と猫の共生に向けて地域全体が取り組む「公共型地域猫」に至ってはならず、現在の谷中は決して「猫の楽園」とは言えないという結論が導かれました。

終わりに

私たちが 2011 年度に行った研究では、「猫の町・谷中」の形成にともなう野良猫問題に対して、谷中の町として十分な対応を行っていると言えませんでした。今後は「猫の町」の影の部分である猫問題を地域全体の問題と位置付けて対応を図る仕組みづくりと同時に、よりオープンで目に見える地域ぐるみの「地域猫活動」を目指す必要があります。

とはいえ、「猫の町」が地域にもたらしたものは課題ではありません。「猫の町」がきっかけとなり、谷中を訪れる人々が、そこではじめて歴史ある「寺町」、風情あふれる「下町」、創造的な「芸術の町」という谷中のさまざまな顔を目にし、谷中の奥深い魅力に気づくことができました。実際に谷中に魅了されて移り住む若い人は少なくないようです。

谷中の猫たちは、文字どおり招き猫として人々をこの町に誘い、その多彩な魅力を伝え、谷中の歴史と文化が継承され、発展するきっかけを創る存在でもあるのです。

備考：この研究は 2011 年 6 月から 2012 年 3 月までに行ったものであり、ここに記載されている内容はその当時の調査にもとづくものです。

このページの研究内容についてのお問い合わせは、木下ゼミ（日本大学文理学部社会学科「社会学演習」）hitoneko.since2012@live.jp までお問い合わせください。